



次から次と神社ごとの祭行列が続き、境内には多くの人が集まって迎え入れました

# 飛驒中の神社一宮に集う

# 一之宮まち協だより

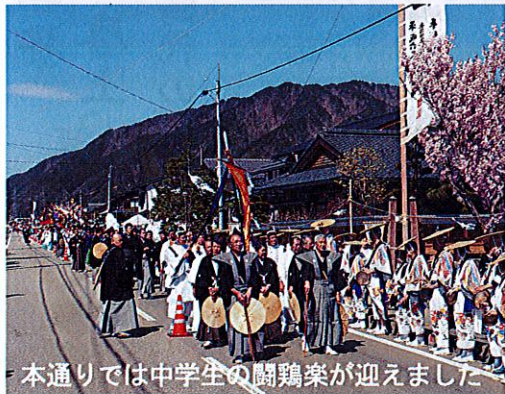
第37号  
 平成29年6月1日  
 一之宮町  
 まちづくり協議会  
 広報部  
 高山市一之宮町3087  
 電話 53-2424

## 水無神社式年大祭

一之宮町の町名ともなっている『飛驒一宮水無神社』の式年大祭『飛驒の大祭』が、実に57年ぶりに開催されました。

水無神社では5月2日に神事を中心とした例祭が行われ、式年大祭は翌3日から6日の4日間、飛驒中から305の神社と7千名近い氏子の方々が水無神社に集結されました。

何年も前から、神社関係者の方をはじめ一之宮町の多くの方が準備を重ね迎えた大祭初日の5月3日、お隣久々野町小屋名の八幡神社と久々野の八幡神社による総勢



本通りでは中学生の鬨鶏楽が迎えました

300名近くもの祭行列が一番乗りされました。  
 その後も古川町の気多若宮神社や清見12社合同など、きらびやかなお神輿などが大勢の氏子の方々とともに渡御されました。

祭行列の進む道中、ところどころで迎え鉦が出迎え、行列の鉦と音を競い合う場面や、観客が多いところでは獅子舞が始まるなど、にぎやかな祭行列となりました。

神社では、参向された神様が神移しをされ、その後本殿では本祭が行われる中、舞台では神事芸能お神酒やどぶろくの振る舞いなども行われ、大勢の方で大変賑わいました。

本祭が終わった後は、参向された神社が順次神移しをされお帰りになる還御ということで、再度行列を仕立てて水無神社をあとにされました。

好天に恵まれ4・5日も大祭は続きましたが、6日には雨にたた



本首福島からは水無神社も参向

られ、渡御される祭行列は雨の中を進むことになりました。  
 それでも予定されていた神社の皆様は、雨に打たれながらも粛々と行列され、迎える水無神社関係者や観客の心を打ちました。

水無神社を中心として一之宮町の総力を結集したともいえる今回の『飛驒の大祭』、多くの方の心に残り、長く語り継がれる祭となりました。関係者の皆様、大変お疲れ様でした。(広報 中島照雅)



雨の中、雨具を付けて進む御神輿



舞台上で披露された各地の神事芸能

# 脚下照顧の実践

山腰 曠氏を偲んで  
代情 岑郎 (駅前)

●故郷を大切にされた生き字引  
手元に山腰曠氏が平成二十三年夏に上梓された一冊の本がある。題名は「一滴の雫 一之宮町のいろり話」である。平成二十九年五月八日、通夜の晩、隣に座った一人の男性がぼつりと漏らされた。「今、改めてこの本を読み直している。感激した。惜しい人を失ったものだ。寂しい。」私も同感である。

●「聞き物語」を未来に伝えたい  
この本の序文には次のように記されている。

昭和五十五年、思わぬ事故で大切な右手を失った。それを契機に絵を習い始め、今も、生きがいとして続けている。大正十五年一月十日に生を受け、波乱に満ちた時代をよくもこの歳まで生かさせて頂きました。これも先人からの営々とした努力あつてのことと改めて感謝します。この里に生まれた一滴の雫である自分が、今、足元を確かめ、将来に伝えるために「聞き物語」を書き留めて置きたい。

## ●命あるものに支えられて

我々は、「木の国」飛驒に生まれ自分たちを取り巻く木々草花の一つひとつに支えられて生かされて来た。出版の祝言の中で林格男先生は「山腰曠氏は、最澄が称え始めた『万物悉皆有仏心』の心を持ってここに当たられて来た」と述べておられる。

## ●文化財を大切に

臥龍桜公園の一角に、「国指定天然記念物臥龍桜復興記」の看板があ

一之宮の歴史・文化に貢献をされた山腰曠さんが5月6日に逝去されました。追悼文書を代情岑郎さんから頂きましたので掲載します。

る。平成三年九月二十七日の台風十九号により大きな枝四本が折れる被害を受けた。一時「復活は不可能」と言われたが、「千年の生命」の再生を疑わなかった人々がこもや繩を持ち寄り、岐阜大学名誉教授林進氏の指導の下、見事に復活させた。山腰曠氏も活躍した一人である。

●「ねじの木」の保護上屋建設を喜ばれる  
五十七年ぶりに、水無神社の式年大祭が五月三日から六日にかけて斎行された。それに先立ち、種々の由緒を持つ「ねじの木」の風雨による腐敗防止の上屋が立派に竣工した。

そのことを伝えたとこころ「良かった」と大変喜ばれた。それが最後の言葉となった。雅号「左山人」の名で臥龍桜をこよなく愛され、数多く描かれた。自己修行の姿にも映った。今迄、幅広く地区を支えて頂いたことに心から感謝し、お礼の言葉とします。 合掌



襖に臥龍桜の水墨画を画く山腰さん

# 一筆 氣の向くままに 啓上

## 時代の流れと共に

小野 和栄 さん (問坂下)

宮村時代の「さくら婦人会」から「まちづくり協議会女性部」として、名称や組織が変更となり3年が経ちました。まちづくり協議会が狙いとす「自分たちのまちは、自分たちで築き上げる」という意識、そして、「地域のなかまがつながり、活動を通して絆を深める」という方針の中で、女性部としても6地区の理事さんを中心となって、地区で活動を展開する方法で行って来ました。



女性部のなかまと共に

しかし、昨年度の反省の中で、各理事さんや支部長さんが企画運営していく事が大きな負担となっているというお話があり、今年度は全体活動として計画するよう見直しを図りました。内容は、昨年度地区活動の中で好評だった「寄せ植え教室」を取り入れる事とし、「寄せ植え華道協会飛驒支部」の皆さんを講師に迎え、今までの寄せ植え教室とは少し違った方面から新しい花文化に挑戦し、また、家庭を守る女性の健康維持のために「氣功教室」を計画し、女性ならではの楽しく参加しやすい事業を計画しました。

縁あって、昨年度から女性の活動に関わらせてもらう中で、何十年もの歴史のある婦人会時代からこれまでに携わってこられた歴代の役員の方々のそれぞれのご苦労や思いを感じることができました。

時代の流れと共に名称や活動内容も年々変わってきて、新しい時代に沿った考え方や活動を取り入れながらも原点に振り返った時、「男女共同参画」といわれる時代の中でも、地域の中の女性としての役割を大切にしていきたいと考えています。

# 飛驒の大祭 献詠短歌

## 宮中学生の作品紹介

大祭期間中の5月3日、献詠短歌の選者である一之宮町出身の山下宣子さんにより、沢山の短歌の中から選ばれた短歌が、神前にて披露されました。その中の中学生の部で、宮中学校生徒3名が選ばれました。短歌に込めた思いを聞いてみました。(学年は応募時点のものです)

大祭おん鳥だけの行列で先頭さんはお父さんがいた  
宮中学校1年 溝端 拓海

(毎年の例祭のように、大祭でも白染めを羽おつた闘鶏楽の大人の男衆が、鉦を高らかに打ち鳴らして先頭をきって行列している姿を思い浮かべて詠いました)

哀しみに濡れたこの世に春のかせ水無に集え濡れた者たち  
宮中学校2年 肥沼 元基

(臥龍桜の花吹雪きを観ていると、最近、災害や事件が多く、心を痛めている人々がたくさんいることを思い浮べます。大祭に来て、心を癒して欲しいと思ひ詠いました)

氷無だよ水無じゃないよ水無だよ水無神社で水無の大祭  
宮中学校3年 役田 陽

(水無神社の正式な呼び方を知らない人が沢山います。大祭をきっかけに、正しい呼び方をして欲しいと思ひ、少しジョークを交えて詠いました)



# 図書館案内



カエルの合唱がきこえてくる梅雨がやってきました。雨で家にいる時間が長くなるこの機会に、普段はやらないところまでキレイにお掃除してみませんか？図書館には重曹やクエン酸などを使ったお掃除術や、お掃除のこつを紹介している資料もございます♪ぜひご利用ください。

## <今月の特集>

### ★「日本絵本賞」

第22回「日本絵本賞」読者賞の候補絵本24点を紹介します。親子での読み聞かせにご利用ください。

### <ご存知ですか？>

高山市図書館一之宮分館ではDVDやCDを所蔵しています。館内にあるAVコーナーで視聴することができます。

### <おはなし会のご案内>

6月17日(土) 午前10時30分～ スタッフによる絵本の読み聞かせ・手遊び。申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。

## 6～7月行事予定

### 6月

- 1日(木) 人権相談
- 7日(水) 結婚相談
- 8日(木) 行政相談
- 10日(土) サタディサークル開講式
- 11日(日) 第6回飛騨ウルトラマラソン
- 18日(日) 市消防操法大会
- 20日(火) 町内会長会

### 7月

- 5日(水) 結婚相談
- 6日(木) 行政相談
- 8日(土) サタディサークル
- 10日(月) 住民健診 11日も
- 21日(金) 全市いっせいらジオ体操
- 21日(金) 町内会長・班長研修会

年齢	男性	女性	合計	前年増減
0～14歳	173	159	332	-10
15～64歳	680	707	1,387	+0
65歳以上	341	476	817	+6
合計	1,194	1,342	2,536	-4
世帯数	825戸			+14

平成29年5月1日現在

### 一之宮町の人口情勢(人)

## ぼくのなまえ☆わたしのなまえ

ななせ

### 七星ちゃん 平成28年7月12日生まれ

お父さん: 清水 謙さん 《寺元》  
お母さん: 清水 明菜さん

もうすぐ1歳になります。最近では音楽をかけるとリズムをとったり、『いないいないばあ』を覚えてみんなを笑顔にしてくれます。

そして、自由に動き回れるようになり、より一層可愛くなりましたが目が離せなくなりました。

「七星」の由来は七夕の天の川のようになんかまくまっすぐ育ち、星の光の



ように優しく輝いて欲しいという願いが込められています。

## ただ今頑張中!

名前: 種倉 雅史さん (34) 住所: 間坂  
職業: 森林組合、土木等経て、現在農業9年目、34aでトマト栽培

### ●農業について

病気や苗が育たなかったりと大失敗もあって、まだまだ十分ではないけど、自分で作って収穫と農業は面白い。

### ●趣味

スキーが趣味。農業は冬が滑れる。

### ●地元の好きなところ

自然が豊か、山がある。

### ●夢は

おいしいトマトをすること。

### ●奥さんに一言

感謝感謝! 8月に3人目が生まれます。元気な子どもを産んでほしいです。



## お知らせ

### ◆「ふるさと写真館」写真募集

みや交流サロンにある「ふるさと写真館」に展示する写真を募集します。

- ・テーマ: ①水無神社大祭 ②ふるさと  
の春 ③ふるさとの初夏
- 上記のテーマの中からお選び下さい。

- ・大きさ: A3サイズ
- ・提出先: 一之宮公民館
- ・提出締切: 6月23日(金)

応募書(公民館にあります)に必要事項を書いて出してください。

### ◆前期教養講座受講者募集

まち協文化教養部では前期教養講座の

ある。安らかにあらんことを祈るばかりで  
(髭爺)

つぶやき...  
一之宮町を愛し、臥龍楼を愛で描き続けた古老が、飛騨一宮水無神社の式年大祭が華々しく神聖の内に終了した五月六日に旅立った。その方の名は、山腰曠氏である。  
人生半ばにして、事故のため利き腕を失ってからの血の滲む思いで、残った手に字を書くことを覚えさせ、その上で日本画の指導を受けてからは、「臥龍楼」を中心に多くの絵画を描かれた。千年以上も命を繋ぎ、幾度の樹勢の衰えの危機や風雪に耐え、今も鮮やかに花を咲かせ続ける臥龍楼に自分の人生を重ね合せていたのだろうか。文化教養人の山腰氏からは、一之宮町の歴史や民俗について、色々ご教授頂いていたので残念である。楽しみにしていた「飛騨の大祭」を前に体調を崩され、満開を過ぎたが美しく咲く「臥龍楼」を観られてから入院されたと聞いた。山腰氏の目には、どのように観えていたのか。私は、山腰氏の速くを見て居る眼差しと笑顔が好きであった。九十一年の生涯を全うした御霊が、

参加者を次の通り募集します。

### ◎バランスボールエクササイズ

- ・日時: 6月28日、7月5日の全2回
- ・参加料: 500円(1回)

### ◎パパッとクッキング

- ・日時: 6月25日(日) 午前10時
- ・材料費: 1,100円

### ◎デコパージュ教室

- ・日時: 7月11日(火) 午後7時～
- ・講師: みい氏

材料費: 800円

### ◎みんなで歌おう「昭和歌謡教室」

- ・日時: 7月3日(月) ほか全3回
- ・講師: 中島良晴氏

### ★詳しくは1日折込チラシ参照★

## 防災隊長などに呼び掛けて防災集会を開催 一之宮町自主防災組織組み入れ機に意識啓発

まち協防災集会が5月18日に一之宮公民館で開催されました。  
一之宮町自主防災組織がまち協の中に組み込まれて防災防犯部の主管となったことから、地域防災に対する意識の啓発を図ろうと、初めて、町内会長はじめ各班の自主防災隊長と副隊長、女性防火クラブ員まで呼びかけて行われたもの。60人が出席しました。

集会では、自主防災組織が、防災防犯・町内防災隊・班防災隊といった系列でつながり、自主防災活動は班防災隊が基本となつて、共助活動を行うといった組織の概要や今年度の事業等について説明が行われました。  
防災に関する研修も行われ、高山消防署大野分署の尾田和

彦消防司令補が「一般家庭における地震対策について」と題して、大地震は必ず起こることを前提に家庭でも簡単にできる備えをしてほしいと話しました。



研修で身近な地震対策について見ながらスライド

## まち協事業発進会開催 今年度事業本格始動へ

まちづくり協議会の今年度事業が本格的に開始される前に関係者の意識の共有化を図り円滑なスタートを切ろうと「まち協事業発進会」が臥龍の郷で5月12日に開催されました。

会には本部役員のほか町内会長や各部の三役、それに武川尚一之宮支所長はじめ担当する市支援職員など31人が出席しました。  
発進会では、今年度の事業展開にあたり、出席者からは担当する

事業やまち協事業について意欲的な声が聞かれました。



田邊会長が各役員を前にあいさつする

## 情報提供現地を確認 今年度は38箇所対象 順次改修等実施予定

市道の修繕など各町内の要望等の情報を市に提供する対象箇所の現地確認が5月10日に町内各地の現場で行われました。  
確認には、まち協本部から田邊会長のほか副会長、町内会長会から日比野代表のほか該当地区の町内会長、支所からは武川支所長や中島係長らが参加しました。  
昨年8月に各班を通じて町内からの情報の提供を求めていたもので、28年度に提出された一之宮町の情報提供は、排水路の改修や市道の修繕等、継続箇所も含めて38件。これらが今年の改修箇所の対象になります。

まち協では今回の現地確認の結果を受け、支所とともに市道等の維持・修繕案件について1千万円の枠内に入る事業を協議しました。



関係者が対応を協議しながら現場を見ながら

## 女性部がボランティア カリリアなどで清掃

女性部は5月21日に、今年度も清掃ボランティア活動をカリリアと一之宮公民館にて行い、25名が参加しました。  
カリリアでは施設説明の後、庭の草取りを行いました。庭全体はすっきりとして、野山の新緑が映え一層見晴らしがよくなりました。  
公民館では周囲の草取りと窓のガラス拭きを行いました。  
サッシの溝や窓ガラスの隅など細かいところも拭き取られ、とても

## 県内外からの5中学校生徒が田植えの体験学習 一之宮民宿組合が受入れ準備から指導まで実施

県内外の中学生による田植えが、今年も町内数か所の田んぼで行われました。  
これは、社団法人「ふるさと体験飛騨高山」が企画運営して、一之宮町では主に「ひだ一之宮民宿組合」が受け入れて実施している中学生の体験学習事業です。

今年の田植え体験は5月8日から始まり6月2日までで、県内のほか愛知県や神奈川県の中学校5校から合計約1,100人が訪れます。  
期間中は町内の民宿が1泊2日から2泊3日の日程で生徒の世話をするため、民宿側では最も忙しい時期です。  
5月18日には岐阜市の梅林中学校の2年生が水無地区の田ん

もきれいになりました。地域のたれにできる事の一つとして、有難い取り組みに感謝いたします。  
(牛丸 朋子)



参加者が草取りするカリリア

ぼで田植えを体験しました。生徒たちは五月晴れの中、裸足で代かきされた田んぼに入り、楽しそうに苗を植えていました。



中学生が楽しそうに植える中足をとられながら泥に